

岩本 憲章さん
Noriaki Iwamoto

〔東京甲佐会会長〕

イワモト ノリアキ / 東京甲佐会会長。上早川一區出身。関東圏在住の本町出身者が集う本会に興味のある方は、事務局(03-3428-9988)までご連絡を。

懐かしむだけでなく、故郷のために 何ができるか考えていきたい

「高齢化と共に減少していく会員数を回復させたい」と語るのは、令和5年に東京甲佐会会長に就任した岩本憲章さん。

同会は、関東圏在住の本町

出身者や本町にゆかりのある者で構成され、会員間の交流と親睦を図ると共にふるさと甲佐町の発展に寄与することを目的に平成6年に発足。あゆまつりや熊本甲佐10マイル

ロードレースへの協賛、平成28年に発生した熊本地震への義援金集めなど、本町に対する支援を行う一方で、空き家バンクのチラシ配布など、甲佐町の情報発信も行っている。

発足当時2000人近くいた会員も現在は80人ほど。平均年齢も約30歳増加しており、継続的な新規会員の獲得が大

きな課題となっている。

昭和22年に上早川一區で生まれた岩本さんは、18歳で上京し、故郷を離れた。電子工学の専門学校を卒業後、電子部品の製造・販売会社に就職し、73歳まで50年以上、東京で働いてきた。

「記憶に残る故郷の風景は毎年3月に行われていた賑やかな初市。多くの出店が立ち並びサーカスも来ていた」と話す岩本さんは、総会後の懇親会や会の行事で、ふるさとの思い出を語り合うのを楽しみにしている。

岩本さんは、年4回の理事会開催、年1回発行する『東京甲佐会だより』の編集、総会および懇親会の開催と、重責を担う。加えて、暑氣払い会、忘年会、有志による秋の宿泊旅行など多彩な会の行事もある。「歩けるうちは、できる限りの催しに参加したい」とやる気満々な会員たちと共に再び活動を活性化させたいと意欲を燃やす。

そんな岩本会長に蜂谷和明前会長も「これまでも同会の補佐役として多大な貢献をし

てこられた。責任感が強く、会員からも慕われている。その人柄を生かして若い世代を呼び込み、次の世代へ繋いでほしい」と期待を寄せる。

遠く離れた地で暮らしながら思うのは甲佐町のこれから。「我が故郷も例外では無く昭和37年ごろ29世帯だったのが、12世帯と半減している。このままでは限界集落となってしまうのではないか。昭和30年ごろの人口は現在の約2倍。1万9千人くらいだったと思う」とふるさとの現状を憂える。

10月には、会員有志9人で2泊3日の里帰りを果たした。甲佐町の現況を見た岩本さんは、「来年4月に予定している総会・懇親会には、たくさんの方を迎えて、思い出話に花を咲かせたい。そして、故郷を懐かしむだけでなく、ふるさとのために何ができるか考えていきたい」と語る。

遠く離れた地にいても、ふるさとを思う気持ちは皆同じ。東京甲佐会は、「同志」の加入を待っている。